

# 広報すずらん

2014(平成26年)

7月発行  
第52号

発行日：平成26年7月1日 (平成8年創刊)

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 大長義信

〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-1-7 TEL: 042-749-8831

編集：広報委員会 ホームページURL: <http://www.suzuran.or.jp>

## 環境の変化に対応するために・・・

事業所の移転に伴う利用者支援の取り組み(ワークセンターやまと)

耐震強度の問題でビルの取り壊しが決定した為、今年3月に事業所を移転することとなりました。知的障害のある人は、新しい環境に慣れるまでに時間のかかる人が多く、不安な気持ちを抱き、行動に落ち着きがなくなる方もいます。新しい事業所へ安心して通所する為に、ワークセンターやまとの職員が行った支援について聞きました。

Q1.利用者へ移転について伝える際、配慮した点は？

「利用者伝えるタイミングについて配慮しました。引越しの日程が決まった時点で、移転の理由を明確にして利用者へ伝えました。また、情報が錯綜してしまわないよう、個々に移転の話伝えるのではなく、利用者へ一斉に伝える様に配慮しました。」

Q2.移転の話聞いた利用者の反応は？

「他の階の企業が早々に引っ越しをしてしまい、ビルが空いてゆく様子を不安に思う方がいました。また、気になることを常に確認したがる方は、声が大きくなり、力が入るようになりました。その方には個別に面談を行い、引越しについての説明を改めて行った上で、環境の変化による不安を和らげる声掛けを行いました。」

Q3.通所経路の支援で工夫をしたことはありますか？

「移転に伴い、最寄り駅が大和駅から鶴間駅に変更となりました。移転前の土曜稼働の日に、利用者・職員で駅に集合し、新事業所まで歩いて見学に行きました。この他、バス停の写真や駅のホームの写真をカードにして視覚的に分かるよう支援を行いました。」

Q4.移転後の支援について教えてください。

「引越しを機に、スペースを作業グループ毎に分けました。また、これまで資材室に置いていた資材を、作業グループ付近に設置したことにより、作業時間や資材確認の時間が短縮されるなど、作業効



率が上がり、利用者の動機づけにもつながっているように思います。加えて、全員で一斉に行っていた清掃を、当番制にしたところ、作業中の方の背後を清掃する時に「後ろすみません」と、声掛けするなど、全員で清掃をしていた時には気づかなかった部分に着目でき、新たな発見となりました。休憩についても、全利用者が一斉に会していたため、私語で盛り上がる事が多く、騒がしくなっていました。作業グループ別に休憩時間を設けたところ、作業中の利用者に配慮して声を抑さえて静かに休憩するようになりました。」

<利用者にお聞きしました>

「どの電車に乗ったらよいか、覚えるまで大変だった。」「遠くなったから、家を早く出なければならなくなった。」「資材が取りやすくなった。」「・・・など、みなさん変化に対応している様子がうかがえました。引っ越しを機にいろいろな部分が見直され、良い方向へと変化している様子も伺えます。事業所が変わった事に関しては、特に違和感を覚える利用者はいませんが、通勤経路の変更にも、大変さを感じている様子でした。みなさん様々な形で環境の変化に対する適応能力があり、利用者一人ひとりに適した支援を怠らないことが大切だと感じました。

(インタビュー：及川委員、高橋委員)

## 福祉事業者から

理事長 大長 義信

26年度も第一四半期が過ぎ、暑い夏を迎える時節になりました。昨夏は台風と水害の多さに日本中が悩まされましたが、今年はどうなるのでしょうか。毎年のように何処かで異常気象と云われるような事態になるので、平年とか平常時がどの様であったのか分からなくなってきました。きっと地球温暖化現象が人々の安全、安心な生活にとって妨げになる方向に地球規模で着実に進んでいる証なのではないのかと思えて来ます。

私達の携わっている障害者福祉の分野でも、事業運営の先行きは必ずしも明るく開かれているとは云えません。未だに、施設利用者に対する虐待事件が明るみに出て世間を騒がせたり、いい加減としか言いようの

ない様な法人経営者の実態が新聞紙上を賑わしたりと、全体の社会福祉法人数から見ればごくひと握りの法人の不祥事が大々的に報じられ、自らが定めた事業に専念したい私達事業者を大いに悩ませています。又、中央では、社会福祉法人の在り方検討会なる会合で、社福が今後いかにあるべきかが熱く議論されているようであり、私達抜きで真面目に地域福祉の向上に取り組んで来た私達の将来を決められてしまうのかと、心配の種は尽きません。昨今の日本の風潮は、何事によらず行き過ぎてしまう事であり、それが新たな規制を次々に呼び込むことになり、自らが感じられなくなり先駆的な活動はおろか、余裕や面白味の全くない事業運営にしかならないのではないかと感じています。





# あいあいSからこんにちは

あいあいS 三室 淳

地域支援部のあいあいSは、ガイドヘルプ（移動介護）・ホームヘルプ（居宅介護・訪問介護・介護予防）・同行援護等が主な活動です。ホームヘルプでは、自宅を訪問して身体介護や家事支援、通院介助などの日常生活に必要な支援を行います。

中でも力を入れている活動がガイドヘルプで、一人で外出することが困難な方が社会参加や余暇を楽しむための支援をしています。行先は様々で、毎回利用者の楽しそうな笑顔を励みに日々の活動を行っています。

## ヘルパー育成の取組

一人で活動することが多いヘルパーが、より働きやすい職場である為に、事業所として取り組んでいることが「ヘルパー連絡会」であり研修です。ヘルパーが事業所に求める声の多くが「学び」に関するものであり、個々のスキルアップと情報共有を目的とした、様々な取組を行っています。

## ヘルパー連絡会のアンケート↓

結果は、常に事業所の壁に掲示し職員の励みにしています。



## ガイドヘルプ 行先ランキング！

- 第1位 ウォーキング
- 第2位 カラオケ
- 第3位 映画鑑賞

その他、温泉・ボウリング・水族館・遊園地など…



## 「学び」に関すること

- ・ノウハウを知りたい、学べる場であってほしい
- ・ヘルパーとして必要な情報を知りたい
- ・利用者の対応の仕方を知りたい
- ・知らないことが多いので、教えてもらいたい
- ・新しい知識がほしい
- ・外部講師招来（発達障害）してほしい
- ・ちょっとしたことが解決できるよう知識を得たい

## 「共有」

- ・ヘルパー同士の意見交換の場であってほしい
- ・活動中困ったことを知りたい
- ・他の方がどんな活動をしているか知りたい
- ・活動の失敗、成功例を聞きたい
- ・利用者毎の意見交換会を行いたい
- ・事例について皆で考えたい
- ・報告書を共有したい

## 「交流会」

- ・食事会（ランチ）
- ・花見
- ・散歩
- ・温泉
- ・レストランで食事

活動の中で、ひやりとした事や微笑ましい出来事があった時は、報告書に記入し連絡会の場で情報を共有します。ひやりとした時や対応に困った事などは、どの様な支援が良いかなど皆で検討し、にやりとする出来事もみんなで喜びを共有します。

## ひやりはっと

・プール後1回、ツタヤで2回、他の人の履をつかんで離さないという行動がありました。辛い状況を理解してくれて、トラブルにはなりませんでした。

一他人の洋服をつかむ前に何かありましたか？  
"どのような時に"の、きっかけが観察できると次の活動に活かすことができますね。

## にやりはっと

「マクドナルドのゴミの分別が、段々速くなってきました。」

→しっかり利用者のできていることを観察してくれていますね。



ヘルパー連絡会の様子

この他にも、ヘルパー毎に学んでほしい分野に重点を置き、年間研修計画を立て取り組んでいます。昨年度一年を通して個別研修を行った成果を、ヘルパーからの声として紹介したいと思います。



同行援護研修の様子

あいあいSではより良いサービスを心掛け、日々努力を重ねております。また、当事業所で一緒に働く仲間も随時募集しております。ヘルパー2級以上で明るく元気な方、お待ちしております！

# より良い人材（職員）を育てるために

すずらんの会の委員会活動のひとつ、研修委員会では、5年前から新任職員に対するフォローアップ研修に力を入れています。その取り組みについてご紹介します。

## ■フォローアップ研修導入の経緯と目的について

この研修を始める以前は、新しく入職する職員へ向け入職前の導入研修を行っていました。内容は、法人の成り立ちの説明や各施設の特徴などを紹介することが主で、以後は配属された事業所でのOJT（職場内教育）が中心になり、法人としての計画的な人材育成に取り組めていない現状がありました。その為、現在は研修委員会が中心になってフォローアップ研修を計画し実施しています。

研修の目的は二つあります。一つは『法人の理念を十分に理解し、日ごろの業務に反映させる』、二つ目は『法人全体の活動を知り、法人職員としての自覚を持つ』というものです。

## ■具体的内容

### ① 理事長の講話

法人の理念や、法人の柱である“仕事に就く”ことについて、実際に具現化する為に法人として求める職員像をはっきりと知る。

### ② 日中活動事業所体験とグループホーム視察

日中活動事業所体験：配属された事業所での業務だけでは、法人全体の活動を知る機会がない為、他の事業所へ一週間程度の業務体験をする事で、事業所毎に特徴のある取り組みを知る。  
グループホーム視察：利用者の日中の仕事の様子だけではなく、生活の場を見学する事で、生活面での自立に向けた取り組みを知る。

この二つの体験を通して法人全体の活動を推し量り、配属された事業所の職員としての意識ではなく、法人の職員としての自覚を持つことが目的です。その他にも・・・

### ③ 事例検討会への参加

定期的に行っている法人内の事例検討会に参加する事で、色々な職員の支援に関する視点や、対応方法等を知る。

### ④ 1年間のまとめ

年度末の全体職員会議にて、1年間に取り組んだ事の発表を行う事により、1年間の業務の振り返りやこれからの目標を明確にする。

これらの研修を1年間かけて行う事により、現状の自分を再確認する事や、今後の目標における自身の課題と必要な支援力のイメージがついてきています。また、フォローアップ研修を通して各事業所にも良い影響を及ぼしています。日中活動の事業所体験やグループホーム視察では、実習先の事業所にとっては日常化してしまっている部分が、新人の目には違和感として映る事があります。そういった違う視点での気づきや感想をフィードバックする事で、各事業所の支援の改善につながった事例もありました。

フォローアップ研修はこれまでの5年間の取り組みによりしっかりと形になってきました。今後は新任職員の他にも、階層別の研修や職員の育成力に関する研修に力を入れ、法人全体職員の育成に取り組んでいきたいと考えています。

(インタビュー：大石委員、和賀委員)

## ■苦情解決委員会 平成25年度活動報告

委員長 斎藤 優子

苦情解決委員会では、昨年度3つのことに取り組みました。

### 1. みなさまから幅広くご意見を伺う

職員への直接のお申し出、ポストへの投函という従来のルートに加えて、初めての試みとして保護者の方々へアンケートにご協力頂き、回答結果について検討しました。また、サービス向上委員会で実施している利用者への聞き取り調査で、聞き取りしたご意見の一部も検討しました。平成25年度は76件のご意見を頂戴し、特に、「職員の接遇」や「サービスの質や量」についてののご意見が多く、日々の支援をより丁寧にしていく必要を痛感させられました。

### 2. いただいたご意見を迅速に検討する

月1回、苦情解決委員と第三者委員で構成される苦情検討会を実施していますが、情報の不足などこちら側の都合により、解決までの期間を長引かせてしまわないよう、検討会前に委員間で情報共有の仕組みを整えました。

### 3. 苦情解決規則の見直し

昨年度、これまでの規則を大局に見直し、今年の4月1日付で改訂しました。実際の運用しやすいものとする事、ご意見を申し出頂くルートを複数設け、何でも言いやすい環境を整えること。これらの部分について見直ししています。お使い頂く書類などは別途ご案内していますが、ご不明な点はお問い合わせ下さい。どのようなご意見でもお聞かせ頂けたら幸いです。



# 平成25年度決算報告

事務長 千田 博伸

平成25年度の事業活動は、収入総額 99,136 万円（前年度比：103%）、支出総額 99,374 万円（前年度比：103%）で、当期収支差額を-238 万円決算しました。これは、事業活動としては 362 万円の当期収支差額となり辛うじて健全な活動となりましたが、平成27年度に新事業所移転を予定している事業所の移転準備費用として 600 万円を期末に積み立てたことによります。

平成25年度は、収支とも前年度比では増加傾向になってはいますが、平成25年度予算比では、計画に対し収入が88%に留まりました。これは、主に計画した利用率を達成できなかった事業所があったことが収入に響いたものです。特にワークショップ・フレンドの利用者就労実績の伸びが著しく、それに伴う利用者の安定確保が難しかったことが大きく影響しています。また、支出も計画に対し87%の実績になりました。これは、各事業所が収入の状況を勘案して経費節減の努力をした結果となっており、この支出の内の人件費では平成25年度で実施した職員の待遇改善（ベースアップ）が図られています。

社会福祉法人すずらんの会

## 平成25年度 決算報告

自 平成25年4月1日  
至 平成26年3月31日

### 《法人全体 財産目録》 [単位：千円]

| 資産の部     |           | 負債の部 |           |
|----------|-----------|------|-----------|
| 基本財産     | 608,574   | 流動負債 | 61,767    |
| 運用財産     | 635,874   | 固定負債 | 83,500    |
|          |           | 引当金  | 40,263    |
| 資産合計     | 1,244,448 | 負債合計 | 185,530   |
| 差し引き正味資産 |           |      | 1,058,918 |

### 《法人全体 貸借対照表》 [単位：千円]

| 借方   | 貸方                |
|------|-------------------|
| 流動資産 | 257,374           |
| 固定資産 | 987,074           |
| 流動負債 | 61,767            |
| 固定負債 | 123,763           |
|      | (負債合計) 185,530    |
|      | 基本金 312,267       |
|      | 積立金 435,321       |
|      | 運用財産基金 0          |
|      | 繰越金 311,330       |
|      | (純資産計) 1,058,918  |
| 資産合計 | 1,244,448         |
|      | 負債・純資産計 1,244,448 |

### 《法人全体 収支計算表》 [単位：千円]

| 借方              | 貸方      |
|-----------------|---------|
| 就労支援事業(障害)支出    | 107,759 |
| 人件費支出           | 616,408 |
| 事務費支出           | 167,271 |
| 事業支出            | 36,210  |
| 減価償却費           | 20,508  |
| 退職給付引当金投入       | 5,641   |
| 繰入金支出           | 7,363   |
| 借入金利息支出         | 779     |
| その他             | 31,800  |
| 就労支援事業(障害)収入    | 110,068 |
| 自立支援給付費収入       | 589,240 |
| 補助金収入           | 94,443  |
| 介護保険収入          | 10,337  |
| 寄付金収入           | 1,556   |
| 雑収入             | 21,024  |
| 受取利息配当金収入       | 2,500   |
| 借入金償還補助金収入      | 3,513   |
| 利用者負担金          | 39,481  |
| 借入金利息補助金収入      | 653     |
| 国庫補助金等特別積立金取崩し額 | 9,671   |
| 繰入金収入           | 84,241  |
| その他収入           | 24,631  |
| 合計              | 993,739 |
| 合計              | 991,358 |
| 当期繰越金           | ▲2,381  |

### 【経理区分】

- ・ワークショップ・フレンド
- ・ワークショップ・SUN
- ・ワークショップ・SUN横山
- ・グリーンハウス
- ・ワークセンターやまと
- ・すずらんの家
- ・ホームすずらん
- ・あいあいS
- ・ぱれっと
- ・ぱれっとやまと
- ・大和市障害者自立支援センター
- ・ヘルピングハンズやまと
- ・本部

平成25年度の就労支援事業(授産作業)の収入は、11,006 万円（前年度比：107% 計画比：80%）で、多くの作業をいただいていた企業様からの受注量が諸般の事情から減少傾向にあったことなどで、全体の受注作業の収入としては予算の達成には至りませんでした。しかし、目標工賃に対しては、工賃向上への取組みの工夫により支払総額で105%を達成することができました。

平成26年度は、平成25年度の状況を踏まえ、事業の運営は利用者の事業所利用が基本にあることに立ち返り、改めて計画した利用率の達成に向けた更なる工夫が必要になるものと思われます。併せて利用者の人権を尊重しつつ、サービス品質の維持向上に努めながらの支援活動をお願いします。また、今年度は新事業所の建設工事が始まります。建設資金は法人の積立金と金融機関からの融資により調達しますが、それに伴う財務活動も活発化するため、事業活動の収支とともに月次での管理を徹底していくことにします。

## 新しい職員を紹介します。 4月採用



齋藤 和喜 (グリーンハウス配属)

大学で学んだ基礎知識と新卒の若さを全面に出していきたいです。その反面、経験値や福祉以外の知識はあまりないため、勉強する姿勢を持っていきたいです。



狩野 匡太 (ワークショップ・フレンド配属)

幅広く柔軟な思考と、多様な価値観を持って、フレンドといえば、「狩野」と言われるような存在になりたいと思っています。



## ご寄付を頂きました

### 兒玉 秀雄 様

この度は、ご寄贈いただきまして誠にありがとうございました。

ご寄付内容：玩具(車、プラレール、ゲーム)、本

## 編集後記

今回の広報紙は、法人の取り組みや利用者の支援方法についてインタビューを元に記事を多く作成しました。取材は初めてで不慣れな点が多かったのですが、色々な考え方を聞けて大変勉強になりました。 及川・大石